

きもの 百年物語

「オモイヲツナグ」

家族みんなの想いが詰まったきものを、
いつまでも美しく。

そして新しい想いでのシーンを
何度でも彩れるように。

三松は、

「きもの百年物語「オモイヲツナグ」
をテーマに、

お直し＆リメイクをご提案し、
譲る人、譲られる人

それぞれの想いを

未来へと繋げるお手伝いをしてまいります。



三松では、6人の専門家が
お客様のお直しのご相談に
対応しています。きものお手
入れはもちろん、サイズのお
直し、染め替え、帯や羽織、
道行きコートへのお直しな
ど、豊富な経験と知識からお
客様のご要望や着用シーンに
あわせてお手入れし、長くご
愛用いただけるように心が
けています。

お客様の「満足」を求めて



きものお直し診断士 石黒正

作業をするのは、豊富な経
験を持った職人たち。気にな
る変色やシミのために染色補
正技術を駆使する職人、洗
いの達人、体に合った着付けを
しやすいように心を砕く和
裁士。職人一人一人が真摯な
想いでそれぞれの仕事に取
り組んでいます。
こうしてさまざまな技術
と知識を駆使して、お客様
の「きものを着たい」「きも
のライフを楽しみたい」とい
う思いに応えています。

きもの 百年物語

「オモイヲツナグ」

VOL.3

「護る人 護られる人」

きものお直し ご相談の流れ

- 1 「汚れがある」「サイズが合わない」「八掛が派手すぎる」などメンテナンスが必要なきものや帯をお持ちください。
- 2 お直し診断士が1点1点細かくチェック。保存状態や使用頻度などを確認しながら必要なメンテナンスを診断していきます。
- 3 お直しの内容に応じて、採寸をしたりご希望の加工内容をうかがいます。
- 4 お直し・加工内容が決まったら、費用の見積もりをご提示します。見積もりは無料です。
- 5 見積もりにご納得いただけましたら、品物を再度確認してお預かりします。

きもの
百年物語

VOL.3
MAR. 2019
「護る人
護られる人」



<https://www.mimatsu-kimono.jp/>



<https://www.instagram.com/mimatsu.shara.kimono/>



株式会社 三松

本社/160-8334 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビル2号館14階
<https://www.mimatsu-kimono.jp>

<https://www.rakuten.co.jp/kimonomimatsu>

【肖像権保護の為、無断転写・複製を禁ず】※尚、印刷の都合上、現物と多少色の異なる場合がございますのでご了承ください。
※全ての掲載商品のお取り扱い状況は店舗によって異なります。詳しくは三松・しやらの各店舗にお問い合わせください。

●お客さま相談室 フリーアクセス 0120-033330

全国どこからでも無料でおかけになれます。お気軽にご利用ください。(受付時間/平日 10:00~18:00)

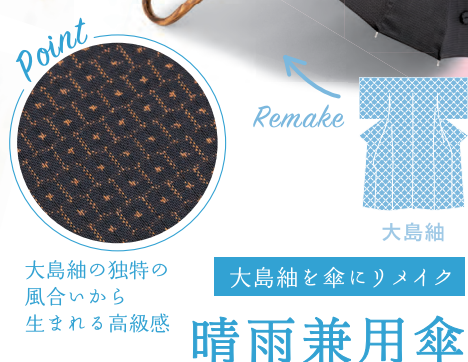


羽織

お直し相談会でも大人気の、きものから羽織への仕立て替え。譲って頂いたきものが裾(ゆき)も身丈も合わない…。でも柄はとっても気に入っている…。そんなときは羽織への仕立て替えがオススメです。裾は飾りハギを入れて、自分のサイズに合うように。

小紋

着用機会のない喪服を仕立て替えし、柄を入れて普段着きものにリメイク。



晴雨兼用傘

大島紬を傘にリメイク。柄がしっかり出て、いつもの装いがワンランクアップします。きものだと着用シーンがあまりないけれど傘はよく使用するから…と贅沢なりメイクながら人気のメニューです。

※古い着物の仕立て替えの場合、傘にリメイクすることはおススメ出来ない場合がございます。まずはお着物の状態をお直し診断士にご相談ください。

ご両親が嫁入り道具として詔(あつら)えた訪問着や喪服、ご祖母様が大切に保管されていたきものや帯など、それぞれの想いを大切にしながらお好みのかたちにリメイクをされる方が増えています。今の自分に合わせてリメイクし、オリジナルの着こなしを楽しんでみませんか？



陣羽織

サイズの合わないきものを陣羽織へ。着こなしのポイントになります。写真は紹(ろ)の喪服を陣羽織に仕立て替えしました。洋服でベストを着用するように、陣羽織はさばきも良く、着用シーンが多い便利な1着です。

かたちを変え 受け継いでいく きもの

和服でも洋服でも着られる！

ベルコート

ゆったり感が嬉しいベルコート。写真は着用しなくなった付け下げをリメイクしたもの。喪服を仕立て替えリメイクして、黒のベルコートにするのもオススメです。シルク素材だから、通気性に富む良い着心地。また直線的な裁断なので四角く小さく畳んで持ち歩けるのも良いところ。



夏のきものを仕立て直した陣羽織でベストコーディネート賞



飾りはぎで裾を出しました

ベストコーディネート賞受賞！ 秘訣は「洋服感覚」

帯や羽織への 仕立て直しも

このきものは母が40代の頃のもので、洗い張りをして裾や幅を直していただきました。帯も元は母のきものです。鮮やかな紫は出番が少ないので思い切って帯にしました。陣羽織は夏のきものを仕立て直しました。ジレのような形で、羽織るとガラリと雰囲気が変わるところが気に入っています。その他に裾を切った部分でつくった「飾りはぎ」で裾を出したもののなど、羽織を何点も仕立てて



石田順子 様

自分スタイルで きものを楽しむ

いただいたきもの着こなしに欠かせないのが、カラーレースをあしらった半襟や色柄ものの足袋。「ちょっと邪道かしら…」と思っていたが、ベストコーディネート賞をいただいて自信ができました。私のコーディネートポイントは「正式感を薄めること」。半襟や足袋は白以外を合わせると、洋服姿の方と出かける時も目立ちすぎないのでおすすめです。正装としてのきものだけではなく、日常生活にもなじむ着こなしにチャレンジしています。



喪服を染め替えて生まれ変わった小紋

眠っていたきものを甦らせて 着継いでいく

祖母の喪服が 驚きの大変身

お直しをしたのは主人の祖母のきものです。きもの道楽だったらしく、筆筒(たんす)8棹分もありました。カビやシミがついたり生地が傷んでいたものも多かったのですが、とりあえず十数枚を三松さんのきものお直し相談会に持ていったのです。その中から私に丈が合うものや、いづれ娘たちも着られそうなものなどを選んでいただいて、染め替え、洗い張り、

きものが増えて 新たな楽しさ

お直しを機にこちらで着付けを習い始めました。せっかくなーさん直していただいたのに自分で着られないと、なかなかきものは出かけられません。今の目標は、来年3月に娘の小学校の卒業式へ自分できものを着ていくことです。私も「きもの着せてもらうもの」から卒業して自由にきものを楽しんでいきたいですね。



鈴木昌代 様

仕立て直し、寸法直しなどをお願いしました。今回のお直しで特にすごいと思ったのは染め替えによって喪服が小紋になったこと。全体が黒とグレーの縞柄で、ところどころに金色の模様が入り、シックながら華やかさもある素敵なきものに生まれ変わりました。皆さんから「これが喪服だったの？」と驚かれるたびに内心「大成功！」と(笑)。